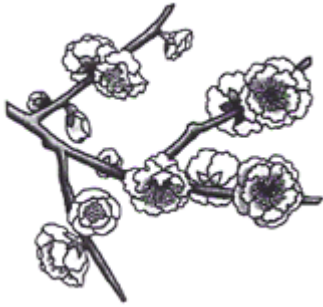


ほっとニュース

発行：特定医療法人一成会 木村病院／企画広報室

今年も、逆風に負けず頑張ります



一成会 理事長・木村病院 院長 木村 厚

明けましておめでとうございます。

2006年は、「医療制度改革」が医療の現場に姿を現した年でした。「構造改革」は国民の支持を得、「郵政民営化選挙」は与党の圧勝に終わりましたが、私たちの生活は一つもよくなりません。「医療制度改革」は「医療費削減改革」となって、患者さんの負担、特に高齢の患者さんの負担を、着実に増やしています。次は「財政再建」「増税」という声が出ていますが、どうして増税が必要になったのか、どうして医療や年金など、国民の「安心」「安全」につながる部分にお金が使われないのか、説明はありません。また、「医療費削減のためには、病院が潰れても構わない」と考えている厚生労働省のやり方は、あまりに荒っぽいため、医療現場は混乱し、「病院封鎖」「医療難民」「介護難民」を、全国に作り出しています。「医療費削減」という大きな掛け声の影で、「医療の切捨て」が行なわれ、それは「患者さんの切捨て」「病院の切捨て」につながっています。

それはそれとして、私たち、実際に医療の現場にいるものとしては、「医療の質を上げる」「より効率的な医療を行なう」ということを基本的な課題として、日々たゆみなく取り組んでいます。その一環として、このたび手術室のリニューアルを行ない、より安全に、より清潔に、より効率的に、手術が行なえるようにしました。また、今年は病院の客観的な評価と改善のための日本でただ一つの仕組みである、「医療機能評価」の更新認定に取り組みます。また、病院で行なう施設医療とご自宅での在宅療養とのすき間を埋めるものとして、「デイサービスセンターかえで」を開設し、「小規模通所介護」という新たなサービスを始めます。その他、「栄養サポートチーム」が活動を始め、また、「短期入院協力病院」(こちらをご覧ください)に指定されました。

政策や制度がどう変わろうと、一成会は、「地域のための医療」を目指し、また「患者さんにとって切れ目のない医療」を実現するために、逆風に負けず頑張ります。

今後とも、一成会の木村病院、訪問看護ステーション、デイサービスセンターに、ご指導ご支援を賜りますよう、お願い致します。

最後になりましたが、2007年が皆様にとって健康で素晴らしい一年になりますよう、お祈り申し上げます。

手術室のリニューアル完了

このたび、1階の手術室と中央材料室のリニューアル工事を行いました。今回の改修により、大病院と比べても遜色のない手術室となりました。

そのねらいは、

- (1) 安全性の点で設備のグレードを上げること
- (2) 清潔さの点で設備のグレードを上げること
- (3) より機能的な業務が行なえるようにすること、です。

また今後は、手術時だけでなく、大災害時も含め外来処置室では対応できない緊急処置室としての利用も考えています。



1. 手術室のリニューアル

今回のリニューアルにより、大小二つあった手術室を一つにして、大きさの余裕のあるものにしました。また、米国連邦規格 209E に基づく清潔度のクリーンルーム(クラス 10,000)にしました。「クラス 10,000 のクリーンルーム」というのは、30センチ角の立方体の空気の中に、大きさ 0.5 ミクロン(1ミリの 5/1,000)の粒子が、10,000 個以下の清浄度の部屋ということを表しています。通常、比較的きれいな部屋と言えるところを実際に測定してみると、粒子が 1,000,000 個以上あると言われていました。

手術室の内装材は、清潔を保ちやすいステンレスやスチールパネルとしました。手術室全体の

気圧を、外部に比べて高めに保ち、外部からほこり等が入りにくい構造になっています。

手術室の電源は、停電時にも、切れ目なく電気を供給できるものになっています。また、手術室の機器も、手術台、無影灯、Cアーム(術中レントゲン装置)など、最新のものになりました。

手術室は、今まで以上の安全と安心を提供できる設備を持つ施設となりました。

2. 中央材料室

中央材料室は、手術室・外来・病棟で使う、医療器具やガーゼなどの衛生材料を集め、消毒などの準備をする場所です。

今回のリニューアルで、オートクレーブ(高圧滅菌器)やジェットウォッシャー(自動洗浄機)、チューブ乾燥機など最新の機器を備えた中央材料室となりました。これにより、清潔度・安全度に加えて、作業の効率性も高まり、より安全に手術ができるようになっただけでなく、外来・病棟の安全度も高まりました。

3. どんな手術をしているのか

木村病院で行なっている手術は、胃・腸・胆のうなどの消化器系(代表的なものは、虫垂炎、胆のう胆石症、大腸がん)など、骨折などの整形外科系(鎖骨骨折、大たい骨骨折など)、泌尿器科系(前立腺がん、膀胱がんなど)です。

私たちが張り切っています

新しい手術室で、今後も質の高い医療を提供できるよう、スタッフ一同張り切っています。よろしくお願いいたします。

外科医 野中医師

新手術室が完成しました。この間、多くの患者さん、特に荒川区の健診等にて手術適応とされた患者さんには多大なご迷惑をおかけしました。数人の患者さんを近隣大学病院や各都立病院等へご紹介させていただきました。誠に申し訳ありませんでした。

11月下旬、新手術室はほぼ完成し、同じく完成した中央材料室への機材の搬入等も行なわれ、お披露目が行なわれました。そして12月5日最初の手術の日、広くて明るい手術室の淡いうぐいす色で統一された壁面は目に優しく、明るくやわらかい手術灯と共に長時間の手術でも目の疲れを感じさせないものでした。また室温管理も容易で、患者さんの体温管理にも役立つものと思われました。そして、明るくきれいな手術室は、何より手術を受ける患者さんに安心感を与えたと思います。

余談ですが、都内でもっともメトロの駅に近い手術室かもしれません！ 歴史ある木村病院の手術室は、これから大活躍します。

看護部外来主任 掛作友香

5月の工事予定が診療報酬改定への対応で10月半ばからとなり、5月に合わせて決定してきたことを確認する作業は大変でした。手術室・中央材料室のスタッフが工事会社と直接打合せて、医師や自分たちが使用しやすい環境作りのために努力してくれました。

工事終了後の内覧会では、他部署のスタッフもたくさん見に来てくれて、「キレイ」「スゴイ」と言ってくれたので、長かった準備期間の苦勞が報われた瞬間でした。12月4日から稼動していますが、トラブルもなく、スタッフもイキイキと仕事をしています。今後も地域の皆様に安心、安全な医療サービスが提供できるように、スタッフとともに努力して行きたいと思います。

外来看護師 日野舞葉

この度のリニューアルにより、部屋の印象が明るくなり、空間が広くなり、収納が増え、機械も新しくなり、より効率的に手術に取り組むことができるようになりました。このような素晴らしい環境で働けること、大変嬉しく思っています。

外来看護師 尾城昌子

12月5日、リニューアル後初めての手術を無事に終えることができました。とても広くなり、手術室としての環境がとても良くなりました。今後も設備に負けないよう、より一層努力し、手術室業務に励んでいきたいと思っています。

外来看護師 春井友美

リニューアルが終わり、スペースも広くなり、クリーン度も高くなったので、より安心、安全に手術が行なえるようになりました。新しく生まれ変わった中央材料室と手術室を円滑に、機能的に活用できるよう最大限努力し、今まで以上に安全に、手術ができるよう頑張りたいと思います。

中央材料室主任 山本千代美

何度も打合せを重ねた中央材料室が、とても明るく機能的な場所に生まれ変わりました。先を見すえた機能をそろえ、「働きやすい職場に」を考え、計画してきました。みんなで考え、作った、そんな気持ちです。中央材料室、これからも役割が担えるよう、がんばりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

中央材料室 小林邦江

待ちに待ったリニューアルが終わり、特にオートクレーブ(高圧滅菌器)の音が静かで滅菌時間が短縮され、最高です。また、洗浄機、チューブ乾燥機、エヤー銃と揃い仕事がスムーズにはかどり、毎日楽しく働いています。自慢のできる職場です。



短期入院協力病院に指定されました

木村病院は、国土交通省により「短期入院協力病院」に指定されました。制度そのものもまだあまり知られていませんが、全国で約 9,000 ある病院のうち、わずか 42 の病院しか指定されていません(07 年 1 月現在)。

「短期入院」は、自動車事故で重度の障害を負って、ご自宅で家族による介護を受けながら療養している方が、指定された病院に入院することができる制度です。入院の期間は、原則として 14 日以内で、年間の通算入院日数は 30 日以内と決められています。この入院期間中に病院は、(1)対象患者さんの病状の把握、(2)介護を行なうご家族への指導・アドバイス、(3)対象患者さんの経過観察、を行ないます。

長期間の介護には、ご家族の休息や、行事等のための一時中断も必要ですが、そうした理由でこの制度を利用することもできます。この制度を利用されたい方は、患者サービス部医療相談室まで、お気軽にお声をおかけください。

栄養サポートチーム活躍中

最近の研究で、病気療養中の患者さんにとって、食事や栄養摂取が大切な役割を果たしていることが明らかになってきています。例えば、食事でも、点滴でも、体が必要としている熱量(エネルギー)を取り入れることはできますが、食物が体内に入って小腸が活動することで、体の免疫系が働くことがわかっています。また、長く寝ついている患者さんも、栄養状態によって「床ずれ」のつき方は、全く違ってきます。

木村病院では、こうした栄養摂取に関わる最新の知見から、患者さんの栄養管理を行い、医療の一環とするため、2005年10月、栄養サポートチーム(NST)を作りました。

チームのメンバーは、医師1名、看護師5名、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、ケアマネージャー、管理栄養士各1名の計11名です。はじめは、職種により栄養管理についての意識はまちまちでしたが、最近では、職員の理解も変わってきました。毎週1回チームの会議でも、異なる職種のスタッフがどうしたら患者さんにとっていい結果につながるか、それぞれの立場から意見を出し合って、熱気あふれる議論をしています。

後藤奈津穂栄養科長は、「今後は、患者さんそれぞれに必要なエネルギー量、蛋白質量、水分量などを考慮した経腸栄養剤の提案をはじめ、適切な栄養管理を提案できるようにしたい」と張り切っています。

栄養管理についてのご相談を希望される方は、遠慮なく主治医におたずね下さい。

看護師・介護士 募集中

あなたの優しさを多くの方が待っています。病院、訪問看護ステーション、デイサービスセンターで働いてみませんか？ やりがいのある、長く続けられる仕事です。

お問い合わせは、3892-3161 看護部まで